



すくろくで 楽しく学ぼう

大阪湾環境保全協議会では、使った後のプラスチックのゆくえがわかる、海ごみすくろく「プラスチックの旅」をホームページで公開中。各自で印刷して利用できます。
https://www.osaka-wan.jp/195/556

海ごみすくろく

ることがあり、特に小さいものは知らないうちに体内に取り込まれ、成長に影響がでると考えられます。さらに、プ

ラスチックはいろいろな物質を吸着しやすいため、有害物質も同時に取り込むことになり、魚たちだけでなく、それを食べる海の生物や人間などへの影響も心配されます」

大阪湾に流れ着くごみも、約8割がプラスチック。ポイ捨てはしないから関係ないと思いかもですが、公園のごみ箱に捨てたはずのペットボトルがはみ出て落ちたこと

に気づかなかつたり、風で飛ばされたビニール袋を拾えなかつたりして、回収されないごみを作ってしまうことも

。そんな街の中のごみも、雨風で川から海へと流れていくのです。

「二人一人が注意して、正しく処理されないごみを少しでも減らしていくことが大切です」

実は豊富で

おいしい

大阪湾の魚たち

資源を大事にしながら漁業を発展させること、食文化を受け継ぐことも、海の豊かさを守ることに繋がります。

「大阪湾では200種類以上の魚介が水揚げされていて、味もおいしいんですよ」

と教えてくれた大塚先生。特に湾の奥の海域は栄養分が豊富で、例えば「金太郎いわし」

と教えた大塚先生。特に湾の奥の海域は栄養分が豊富で、例えば「金太郎いわし」



世界には、貧困や飢餓、人や環境など、さまざまな課題があります。これらを解決し、将来にわたって全ての人がより良い生活を送れることを目指して決められたのが上の「持続可能な開発目標」SDGs。2015年に国際連合の会議で合意され、2030年までに17の目標を達成しよう、世界の国々が取り組んでいます。大きな目標ですが、これらは私たちの普段の暮らしにも結び付いています。今回は「目標14・海の豊かさを守ろう」について、大阪府立大学の大塚耕司先生に教えてもらいました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年、みなさんが大人になり、社会で活躍する頃、大阪は、そして世界はどうなっているかな？ 未来のために、今できることを始めてみませんか。

SDGsってなあに？

守っていくために



小さくなつて海を漂い続けるプラスチックごみを減らそう

海の環境で最近注目されているのが、プラスチックごみの問題です。「使い終わったプラスチックは、通常、埋め立て・焼却・リサイクルなどで処理されますが、世界では、正しい方法で処理されていないプラスチックが年間約3000万トンあり、そのうち1000万トン前後が、海に流れ込んでいるとみられます。そんな海洋プラスチックごみの量は、2050年には、海にすむ魚の量よりも多くなると予想されているのです」と大塚先生。



▲大阪府内の海岸に流れ着いたごみ(提供: 大阪府)

小さく砕かれた数ミリ以下のマイクロプラスチックです。「正しく処理されていないプラスチックごみの半数以上は東アジア・東南アジアからのもので、日本近海には、1平方キロメートル当たりで世界平均の約27倍ものマイクロプラスチックが漂っています。魚などがエサと間違えて食べ

私たちにできること

- 外で出たごみは 持って帰って正しく捨てる
- 買い物のとき、 不要なレジ袋はもらわない
- 大阪湾でどんな魚がとれるか 調べてみる

このほかにもどんなことができるか考えてみて

教えてくれたのは…



大阪府立大学 教授 大塚耕司さん

大学院人間社会システム科学研究科現代システム科学専攻。大阪湾の環境などを研究。阪南市ほかと共同で「漁業と食糧がもたらす魚庭(なにな)の海の再生」プロジェクトを実施。